

# 平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名

高知大学教育学部附属特別支援学校

## I 概要

### 1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
○	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人 高知大学	特別支援学校	知的障害	こうちだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう 高知大学教育学部附属特別支援学校

### 2 研究課題

知的・発達障害者の一般就労率の向上と就労継続を目指し、現場実習先の開拓や現場実習先での生徒個々の障害特性や発達段階に応じた就労支援に関する研究、雇用に向けた作業学習研究を進める。

### 3 研究の概要

本研究では、就労率の向上に向けた取組として、就労を目指す生徒への現場実習先での支援に関する研究や、雇用に向けた作業学習研究を柱に進めてきた。研究を進める方策として、①学校教育（作業学習や教育課程）に関する研究、②生徒個々の障害特性や発達段階に応じた就労支援、③職場との連携・支援に関する研究の3点を中心として研究を進めた。

①学校教育に関しては、ジョブコーチを中心に、前年度に引き続き菓子工房 hocco sweets（以下 hocco sweets）でのドイツ菓子製造工程に関する分析を行い、高等部生徒や卒業生の雇用や雇用継続に向けた研究を進めた。また、教育課程編成に関する研究では、就職支援コーディネーターと進路担当を中心に、卒業生の卒業時の就労先について、過去16年間（延べ72社）の職務分析と活動内容（仕事内容）について分析を行った。②生徒支援については、就職支援コーディネーター、ジョブコーチ、進路担当が協同して現場実習受入依頼のための学校紹介リーフレットの作成や職場開拓、現場実習先での職務分析や課題分析、段階を追った指導に関する研究を進めた。③職場との連携・支援については、卒業生の就労先の職場や作業所とのコラボレーションによる作業学習の研究や卒業生の障害特性について理解を深め支援の統一や支援法の改善研究を進めるため、hocco sweetsでの職場内学習会の開催など、職場での連携・協同に向けた活動を行った。

#### 4 研究の成果

①学校教育に関する研究では、ジョブコーチによるドイツ菓子製造にかかわる工程分析を進め、製造にかかわる生徒の活動が増えた。製造を担当していた生徒の内1名は、希望していた菓子作りにかかわる仕事に就職（A型事業所）できた。また、就職支援コーディネーターと進路担当が平成12年度から27年度までの本校卒業生の一般就労先事業所延べ72社について、卒業時点の職務と活動工程（職務単位の仕事内容）について分析を行い、就労に必要な要素を取り入れた教育課程編成に向けた準備を進めた。さらに、ハローワークや特別支援学校間の情報交換も進め、新たに14事業所の職場を開拓し、現場実習を実施した。このうち3事業所に就職が決まった。

②就労に向けた生徒支援に関する研究では、4月当初はB型事業所を希望し、9月の現場実習から一般就労を目指した生徒が、就職を前提とした現場実習で、ジョブコーチが職務分析や課題分析を行い、活動内容を明確に示したこと、本人のこれまでの現場実習の経験も活かすことができたこと等もあって一般就労に繋がった。本年度は、卒業生7名中4名の就職（A型事業所も含めた就職率57%、B型事業所も含めた希望先の就労率100%）が決まった。

③職場との連携については、hocco sweets を雇用モデルとして充実するため、卒業生Aさんの障害特性理解や支援法について厨房や接客担当の職員を中心に、本人も交えた職場内学習会を開催した。周囲の困っていることやAさんの困っていることを出し合うことで、相談窓口等担当を決めることや職務内容の変更を伝える時などは傍で顔が向いてから話すと伝わることなど、具体的な方策がわかり、Aさんとのコミュニケーションが深まったことで菓子工房内の雰囲気が良くなった。

B型事業所への就労が決まったBさんに対し、活躍できる職種を増やし仕事にリズムを付けるため、本校軽作業で行っていた作業内容を提供できるよう準備を進めている。

#### 5 課題と今後の方策

##### <課題>

① 就労率向上に向けた取組については、昨年度に続き、本年度も職務分析や課題分析、課題分析を基に介入の度合いを自立度や理解力に応じて段階的系統的に少なくしていく取組や、事業所との連携による就労に向けた取組については一定成果が見られた。今後は、さらに研究実践を進め、有効性を示すことや、就労を目指す生徒の希望職種や適職に向けた職場開拓、職務分析に基づく教育課程の編成は継続課題である。

② 雇用に向けた作業学習については、昨年度オープンした hocco sweets を軌道に乗せるとともに印刷作業を事業所として運用することや、障害特性に応じた雇用の場の新たな創出を図ることが今後の課題である。雇用の母体となる hocco sweets や印刷作業を事業所として安定して運用するためには、製品の質の向上、市場の開拓、人材育成なども必要となってくる。

##### <今後の方策>

就職支援コーディネーターによる職場開拓や職務分析、教育課程編成に向けた資料作りを進める。今回行った卒業生の就労先の職務内容や活動工程をさらに細かな行動単位まで分析することで、就労に求められる要素が見えてくるのではないかと考えている。

引き続き就職支援コーディネーターやジョブコーチを配置して、実践研究を進め、就労を目指した支援法や教育現場での活用モデルとして、ホームページ等を使って広く発信するとともに、学会等でも発表することで外部からの評価を受ける。